

基本的な約束と多様な対策で 投てき種目の重大事故を防ぎましょう!

令和元年11月号

中学校・高等学校等教職員
運動部活動顧問
外部指導者向け

平成17年度から平成29年度までに死亡見舞金及び障害見舞金を給付した事故のうち、投てき種目の事故は、**14件(死亡1件、障害13件)**あります。そのうちの11件は運動部活動中が大半を占めています。

| 学校種・学年別 | (件) | | | |
|---------|-------------------|------------------|------------|---------------------------|
| | 1年 | 2年 | 3年 | 計 |
| 中学校 | 4 (砲丸3、円盤1) | 1 (砲丸1) | 1 (砲丸1) | 6 (砲丸5、円盤1) |
| 高等学校等 | 2 (ハンマー1、その他1) | 5 (ハンマー4、やり1) | 1 (砲丸1) | 8 (ハンマー5、砲丸1、やり1、その他1) |

学校安全Web 学校事故事例検索データベースより



事故事例は裏面をご覧ください



監視役を置く(工夫の一例)

- 両側に2~3人ずつ
- 離れたところから安全を確かめさせる係を置き、ホイッスルで危険を知らせる。



事故防止のための対策

- 投てき種目に関しては、他の種目とは異なる配慮が必要です。
危険性を十分に理解し、危険であることの認識を忘れないようにして練習や競技を行うことが重要な事故防止策の一つです。
投げる前に前方や落下地点付近の安全を確認し、原則として人が前や近くにいるときは投げない、投てき者や危険なエリアに近づかない、お互いに声を出して確認しあうなどの基本的約束事を作り、守らせることが重要です。
- 同じ場所(グラウンドなど)で複数の部活動が活動している場合、安全に活動できるエリア(広さ)を確保するため、部活動の数を制限したり、活動する曜日や時間を調整したりして災害・事故が起こらないような管理も必要です。

参考:「課外指導における事故防止対策」- 体育部活動における事故の現状と事故防止のための管理と指導 -



投てき種目で、障害が残る 重大な事故が発生しています!!

令和元年11月号

中学校・高等学校等教職員
運動部活動顧問
外部指導者向け

中学校

| 障害種別 | 学年・性別 | 発生状況 |
|--------------|-------|---|
| 外貌・露出部分の醜状障害 | 1年・女 | 円盤投げの練習をしようとしていて、横で待機していた本生徒の前で練習していた生徒が失敗し、円盤が本生徒の方に飛んできて、前額部に当たり負傷した。 |
| 精神・神経障害 | 1年・男 | 陸上体育的部活動時、ダッシュの練習をしていた際、スタート地点へ歩いて帰る途中、あぶないという声にしゃがんだと同時に7~8m飛んだ砲丸が左側頭部に当たった。 |
| 手指切断・機能障害 | 3年・男 | 体育の時間中、砲丸の投球練習をしていた際、足元の砲丸を取ろうと手を伸ばしたところに、他の生徒が投球した砲丸が飛んできて、取ろうとした砲丸と飛んできた砲丸との間に指を挟み負傷した。 |



高等学校

| 障害種別 | 学年・性別 | 発生状況 |
|-----------|-------|--|
| 精神・神経障害 | 2年・女 | 陸上部活動中、講師が自ら指導のためハンマーを投げたが、失投してしまった。本生徒は、投げる前の合図に気づかずハンマーサークルに背を向けるように立っていたので、サークルのフェンスを越えてきたハンマーに気がつかず、頭に当たり負傷となった。 |
| 精神・神経障害 | 2年・男 | ハンマー投げの練習中、他の部員の投げたハンマーが本生徒の頭部を直撃した。 |
| 視力・眼球運動障害 | 2年・男 | やり投げ(プラスチック製、先端はゴム製、約50cm)の練習をしていた。生徒が向かい合い、片方が投げ片方が拾う練習中、本生徒は落ちたやりを拾っていたところ、隣の列にいた生徒のやりが飛んできて、左眼に当たってしまった。 |



学校安全Web 学校事故事例検索データベースより